

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

【事業所概要(事業所誌A)】			
事業所番号	4270202320		
法人名	(有)グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームやみね		
所在地	長崎県佐世保市矢峰町82-1		
自己評価作成日	令和 6年 11月 10日	評価結果市町村受理日	令和7年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6年 12月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私共のグループホームは高台の静かな住宅地に位置し、敷地内には庭園があり、四季折々の木々や草花が楽しめる環境です。家庭的な雰囲気をモットーに、集団生活の中でもご利用者様個人を尊重したケアを行ない、管理者、主任を中心にご利用者様本位の生活が送れる支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

理念を軸として、忙しいときも笑顔でケアすることを職員の心得として第一目標に掲げている。コロナ禍で外出できない代わりに、ウッドデッキにてホットサンドや焼きそば、スイカ割りやかき氷で夏気分を満喫し、敬老会には特別弁当で祝っている。珈琲好きの利用者にさり気なく提供する等温かみがある。誕生日は職員手作りの色紙を送る等、人生の節目を重視している。職員は、日常の一コマを写真に残し家族へ届けており、写真から伝わる情報量は多く、家族に喜んで貰えるよう力を込めて作成している。防災では、2階に避難場所を増設し、車椅子可能なスロープを設置する等、命を優先している。ドライブや家庭菜園、公民館への作品出展等、活動が増えつつあり今後に期待が持てる。認知症のために対話がうまくいかない時は、本人の昔の経験から、思いを引き出す支援によって笑顔が戻っており、利用者が安心して暮らせるホームである。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在、業務日誌の表紙に貼り付け見えやすいように工夫している	理念は、玄関やホーム内の目につく場所に掲示する他、業務日誌の表紙にも貼り付け職員間で共有している。また、忙しい時も笑顔でケアすることを、職員の心得として第一目標に掲げている。利用者との対話がうまくいかない時は、否定せず受入れ、尊厳を持って丁寧に対応する等、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の状況に応じて、回覧や清掃活動には参加している。	コロナ禍で、以前のボウリング大会や職場体験受入れ等、自粛している。公民館で開催の文化祭に、利用者の作品を出展したり、生のバンド演奏会を利用者と聞きに出掛けている。回覧板にて地域の情報を得ており、町内清掃に職員が参加する他、近隣住民とは気軽に挨拶する等、地域との交流が途絶えないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の疑いがありそうな方がホームに立ち寄られることが2、3度あり民生委員さんに連絡し早期発見につながった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や知見を有する者の意見を反映しドライヴやレクリエーションに取り組んでいる	近年は、2ヶ月毎の対面会議を開催しており、利用者状況や行事報告、面会状況やアクシデント報告を行っている。構成メンバーから花の開花情報や面会状況、災害対策についてのアドバイスを得て、サービス向上に活かしている。ただし、家族の参加が少なく、参加していない家族へ議事録を送付していない。	ホームの取組みを知って貰い、理解を得るため、また会議への参加のきっかけになるよう、参加していない利用者家族へ議事録を送付することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いつでも相談できる様、環境を整えている。メールや電話も用いて、災害時などのやり取りや運営について尋ね連携をとっている。利用者の待機状況なども相談している	市からはメールで問い合わせがあり回答している。運営上の疑問点は、電話で予約し、管理者が窓口で尋ねている他、大雨時の避難状況を相談している。グループホーム協議会からの市主催の研修案内に、管理者、職員が、リモートや対面で受講し、内部研修にて職員共有しており、協力関係を築くよう取組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、その後ホームで職員とともに内部研修を行なっている。推進会議においても身体拘束防止委員会への報告を行ない、課題がある際は再度職員会議で議題としてあげ、早期に対応して、拘束がないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会は3ヶ月毎に開催し、運営推進会議にて報告している。職員は定期的に研修に参加しており、テストにて理解度をチェックしている。管理者は、職員の不適切な言葉遣いには、注意を促している。センサーマットは、家族に同意を得ており、検討し拘束のない支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、ホームでの内部研修も行うことで日頃の介護についての話し合いを行ない虐待防止つなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者その人の必要性を理解して、活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書を読みながら口頭で説明するが、いつでも疑問や不安があった際は尋ねられる環境と関係をつくり、十分に納得できるよう対応をしている。入居時にはご家族へ十分な説明を行ない、安心していただけるよう努めている。退居時や契約変更時にも、必ず連絡を入れ書面とともに説明を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置し、ご家族の意見を反映した介護に当たる努力をしている。また問題が発生した場合には職員会議で検討するとともに、お便りや推進会議でも報告している。	ホームでは、毎月家族向けのホーム便りを作成して送っている。コロナが第5類移行したことから、家族から外出や面会についての要望があり、1、2時間の外出や現在、玄関のスペースで本人との面会が叶っている。面会の際に、家族は職員に要望等を伝えており、ホームで情報を共有し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングを開催し、管理者は近況を全職員につたえている。職員全員が持ち回りで司会と書記を担当し、一人一人が発言しやすい場を作っている。必要時には、代表者や管理者が個別に面談を行ないホーム運営の発展に努めている。	月1回は全体ミーティング、更に毎月ケア会議を行っている。管理者は両方の会議で職員の意見を聞き取る他、日常的な会話からも把握している。代表に伝えたいことは管理者がまとめて伝えている。希望休ノートに各職員が記し、管理者が調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の介護の力を高めるように、研修を受ける機会を提案し、働きながら学べる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の特性を生かし、研修の参加を促し介護のキャリアアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	疑問に思うことはメールや電話などで連絡を取り合って交流を図ったり、サービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族などの電話や問い合わせには落ち着いて積極的に応対し、安心感のある雰囲気作りに努めている。見学の際にはご本人の同席も願ひご本人の気持ちを大切に相談を受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望を聞いたうえで本人に何ができるか、出来そうなのかを伝え今後の生活が本人、家族にとって前向きであるよう支援を進めていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がどんなサービスを必要としているのか面談時に話を聞き、類似のサービスの話も含め説明し、検討していただき、安心してサービスを受けていただける様努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を目上の者として敬愛し自立支援を目指して暮らしを共にする者として支えていくよう努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と定期的に連絡を取り、本人の状況を伝え、本人、家族の思いを大切にしながら今後のケアについて検討し決定していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	便りや電話等は職員が間に入り、情報共有ができるよう努めている。	利用開始時に、本人・家族から交友関係や生活歴を聞き取り、管理者が書面にて職員に伝えている。馴染みの美容院には家族の協力を得て出掛けている。また、携帯電話を所持する利用者は、家族との会話を楽しんでいる。本人が希望する計算ドリルや習字、新聞を読むなど生活習慣の継続を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を個人として尊重し、利用者同士の交流を見守ったり、必要な時は職員が間に入り利用者同士の交流の場を設定している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後にも電話で安否を尋ねたり、家族の相談に応じたりなど、継続的なお付き合いを心かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、新たな情報があれば追記し、本人の思いに添える様努めている。意思表示が難しい利用者には表情、家族、スタッフ全員で話し合い本人本位に検討している	職員は入浴やおやつの時等、利用者と1対1で会話している。難聴の場合は聞こえる方に声を掛けており、言葉での表現が難しい場合は、これまでの生活から思いを推測して支援している。起床、就寝の時間は自由である他、化粧品を所持する利用者もあり、本人の暮らし方の希望を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や家族からの情報収集等から生活歴や生活環境をアセスメントし把握に努めている。昔の話を聞いたりして、その方に合った方法でサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、介護記録、他職種者の助言等をスタッフ全体で共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今現在の課題を本人や家族と話し合い介護計画を作成している。毎日のケアチェック表にてケアプランの実施状況を把握し、担当者会議で達成度を確認して、次のステップにつなげている	入居時の暫定プランは1、2ヶ月で、短期3ヶ月長期6ヶ月の本プランへ移行している。ケアプランは個人記録に特記事項を設け、ケアチェック表とも連動させており、分りやすい記録となっている。3ヶ月毎の担当者会議では、医師や作業療法士の意見を基に全職員で、本人、家族の意向に沿った見直しを行い、了承を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は特記事項を設け一目で見ても理解できる工夫をしている。介護計画の見直しにも活用できるようにケアチェック表などとも連動させている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望に合わせた受診介助、買い物支援や、OTリハビリにも取り組んでいる。訪問による理美容、口腔ケア等を取り入れ、一人一人を支えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが地域で安心して暮らしていけるよう家族や民生委員の方への定期的な状況報告を行なっている。現在は、地区清掃、公民館まつり、回覧板、に参加し繋がりが途絶えない様心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の意向に沿っている。それぞれのかかりつけ医と情報を共有し適切な医療を受けられる様支援している。	利用者全員が、協力医の訪問診療と訪問看護を毎週受け、歯科は、希望で月2回の口腔ケアを受けている。眼科や皮膚科等、他の診療科は、職員や家族の支援もあり、受診結果は、職員と家族で情報共有している。訪問看護師は24時間オンコール体制であり、緊急時は、後方支援協力医院への搬送等、適切に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、医療連携の看護師が来訪し、連携をとり支援に当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院関係者や家族より情報を得て、共有できるようにしている。退院の際は家族と話し合い、ホーム内でカンファレンスを早期に行い安心してホームに戻れるように環境づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居開始時に終末期の看取りについて本人と家族の意向を聞き、事前に確認書を作成しているが重度化した場合は改めて、家族、主治医、管理者、看護師、介護スタッフ等と話し合い説明しながら支援に取り組んでいる。	看取り指針では、看取り対応可能と明文化している。入居時に「終末期の看取り等についての事前確認書」にて、本人、家族に意向を尋ねている。重度化の際は、主治医から本人・家族へ説明があり、職員と共に方針を決めている。ただし、体制が整わないことから看取り事例がなく、指針と支援の在り方に差異が生じている。	本人・家族が安心して終末期を迎えるためには、ホームでできる支援体制を早い段階から明らかにする必要がある。指針の整備と本人・家族への説明が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、職員は研修等に参加し、内部研修を行い対応できるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災訓練は年1回、マニュアルに沿って行っている。地域のハザードマップの確認をしている。災害に備えた物品の備蓄、非常持ち出し品の職員への周知もできている	年2回、消防設備会社立会いの火災訓練を、昼夜間想定で各々1回と、自然災害訓練を1回実施している。災害時の連絡網やフローチャートを整備している他、避難場所を決め、非常持出や備蓄を整備している。ただし、コロナ以降、消防署の立会いはなく、訓練に参加がない夜勤職員がいる。	災害時の避難場所が、利用者にとって適しているか、消防署員の立会いやアドバイスを基に検討が望まれる。また、参加がない夜勤職員の訓練参加が待たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を重んじ言葉かけを考え、プライバシーを損ねない対応をするように心がけている。	現在、利用者全員が女性であり、羞恥心に配慮して男性職員は動作に入る前には声掛けしている。利用者は基本的に苗字や名前にさん付けで呼んでいる。失敗した際は、さりげなく誘導しており本人の尊厳を大切に支援している。職員は守秘義務の誓約書を提出しており、家族から写真掲載の同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いをよく聞いて希望に添えるよう働きかけを行ない、意思表示が難しい人には、表情や反応でくみ取り利用者さんが気兼ねなく自分の気持ちを表現できるような雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとって無理をすることはせずに、利用者が自分のペースで今したい事を優先してできるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の来訪にて、その人に合ったヘアスタイルの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「美味しかった」の言葉が聞けることが多い。職員と一緒に今できる能力での準備や片付けのお手伝いをお願いしている。	食事は外注業者に依頼しており、湯煎して提供している。各ユニットのキッチンで利用者の咀嚼状態に合わせて、ミキサー食、キザミ食に加工している。誕生日は本人のリクエストに応じて食事を提供したり、敬老会では手作りの惣菜を購入して祝っている。クリスマス会のケーキは利用者が果物で飾り付けし、楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にあった量の提供。体調に合わせ、全量摂取できる様に、医師や看護師、歯科医と連携を取りながら食べやすい形態を提供している。水分量もいろいろな工夫を職員で考え、実施している。声かけを、適度に行うことで食事を楽しく摂れるような環境を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアできる方には毎食後の口腔ケアの声かけを行ない、自分で難しい方は、付き添いできるところまでをお願いして、その後に支援をしている。自力でできない利用者さんには、口腔内を清潔にしたり、歯間ブラシやその人にあった道具をつかい清潔保持に努めている。定期的な歯科医による口腔ケアも受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導で声掛けを行ない、出来るだけ失敗をしないよう自立に向けた支援を行なっている	職員は排泄チェック表に記録して、パターンを把握し早めの声掛けで失敗しないように配慮している。職員の丁寧な支援により、退院後にオムツだった利用者が、日中はリハビリパンツで過ごしている。パッドのサイズは、毎月のミーティングで検討し、本人に適したパッドで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取った料理を提供し、水分チェックを行ない、毎日の体操を心がけ、自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じてあせがらず、ゆっくりと入浴できる様に支援をしている。	入浴は週に2回支援しており、入浴日以外は、衣類を交換している。入浴拒否がある場合は、気分をかえることができるよう声掛けを工夫している。個人で好みのシャンプー類を使用している。ヒートショック対策として、脱衣所にエアコンを付けて温度差がないよう気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操などで体を動かし、夜間は、テレビの音を小さくしたり、照明を落としていたりして環境を整えている。不眠時は、状態を観察し気ままに過ごせるように見守りや声掛けをし安心してもらえるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の薬剤情報をまとめて見やすい場所に設置し内容を全職員が把握できるようにしている。服薬は2重、3重のチェックを行ない誤薬がないように気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに出来る事を行なってもらっている。コーヒーが好きな人には、おやつ時や希望時に差し上げている。ふりかけや梅干を好まれる方への購入から提供まで支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	去年から少しずつ天気の良い日にドライブに出かけたり家族からの外出希望の依頼にも対応している。	ホーム敷地の裏手は、桜やつつじが咲き誇る庭園があるため、春にはリビングから花見を楽しんでいる。夏場はデッキを利用して外気浴ができる。また、今年から公民館祭りに出品した利用者が展示会に出掛けている。病院受診の帰りに景色を眺めドライブを楽しむ人も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が現金を所持することはないが、本人希望の品物は職員が代行で購入して本人にはレシートで確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に携帯電話を持っている人もおり、自由に使えるようにしている。事務所でも本人希望時、即対応できるようにしている。手紙は届いたら本人にすぐ渡せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はバリアフリーで手すりは動きやすい位置に取り付けている。TVやCDの音量を調節したり、カーテンは2重にし光の刺激を和らげている。においや空気のおどみがないように換気にも気を配っている。季節の花を飾ったり、季節に応じた貼り絵をし居心地よく過ごせるように工夫し、家庭的な雰囲気作りを大事にしている。	ホームは、桜の開花時期には裏庭に咲き誇る桜を上下階のリビングから花見ができる環境を有している。利用者は季節の飾り付けを施したりリビングに集い、風船バレーや職員のギター演奏に興じたり、歌を歌ったりと過ごしている。空気清浄機を設置し、職員による換気や清掃で清潔を保持し、夜間には照明を落とす等、環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイス、テーブルをホールや廊下に置き、一人でも、また気の合う者同士でも、思い思いに自由に過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に、使い慣れた物や好みのものを自由に持参してもらい、居心地よく過ごして頂けるように個別性のあるお部屋づくりを心掛けている。	居室は、フローリングと畳の部屋がある。安心して過ごせるよう、仏壇や遺影、テレビを配置し、壁には、絵画や誕生日祝いの色紙、習字作品を飾り、身だしなみの為の化粧水を置いている。眠りリスクン設置には安全への配慮がある。職員による清掃や、週毎のシーツ交換で清潔に、温度管理で快適な居室となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、それぞれの目線に合った位置に表札をかがけ、共有スペースは、広々とした空間を作り、時計やカレンダーは見やすい位置に設置している。トイレや浴室も矢印をつけ、自由に安全に生活が送れるように工夫している。		